

相馬しょう一立候補予定者との協議内容

日時 3月4日 午後4時30分～6時
場所 相馬しょう一援会事務所
参加者 相馬陣営:相馬しょう一
弘前市を考える会:山前雄義
マニフェストを提案する弘前市民の会:上田 勝
記録担当:今泉昌一(弘前市を考える会)

冒頭 相馬氏より、「政策について、何もかも話すわけにはいかない。これまでも相当、真似されてきたので、直前で無いと発表できない」と断りが入りました。

その上で、「自分の政策よりも、そちらの提案をもとに話しましょう」ということで、上田氏が共同政策提案を説明し、それに対して相馬氏が感想や意見を述べる、という形で協議は進められました。

以下に、その要点を箇条書きで記載します。

- 1 弥生問題は、“凍結”ではなく“中止”と、正式に訂正した。
- 2 一般会計、企業会計も一緒にした、バランスシートを公開すべき。ただし、第三セクターについては前向きに検討する
- 3 外部監査は必要なことではあるが、金もかかることなので、監査委員の選任方法が問題である。市民オンブズパーソンについては、要検討。
- 4 市民参加型の市政運営を目指す。その具体的な方法については、市民からの提案を受けて考えたい。
- 5 地域自治区については要検討。
- 6 入札制度については、地元企業のことを考えて決めないと、経済が駄目になってしまう。
- 7 選挙結果によって、業者の興廃が顕著になるのは好ましくないが、ある意味、やむを得ない面もある。選挙に対する姿勢を、業者側がよく考えたほうがいい。
- 8 生涯スポーツの普及に力を入れることが、市民の健康維持につながり、医療費の抑制の効果も期待できる。
- 9 福祉、医療に関する各提案については、必要性は十分わかるが、一方で財政の問題もあって、慎重に検討する。
- 10 経済を振興し、市民所得を高めることにより、福祉に回せる財源を生み出すことが大切。
- 11 教育は非常に重要な課題である。しかし財政との関連もあるので、そのことを考えながら前向きに検討する。
- 12 小さな町村規模だと、自校式給食も可能だが、弘前くらいの規模ともなると、自校式でやっていけるのだろうか？ 西部給食センターの是非については、即答できない。
- 13 学会、スポーツイベント、修学旅行等による、入り込み人口の増加策は絶対に必要。そのための専門部門を行政の中に創る。
- 14 商店街の再生は、国も深く係らないと難しい。言うは易く行なうは難しい問題ではあるが、今のままでいいとは思っていない。
- 15 高照神社の改修、観光資源としての活用は、絶対に必要。
- 16 弘前公園の有料化の是非については、様々な意見があるので、それらを聞いた上でじっくりと考える。

- 17 農業政策は、共同提案の内容でいい。ただし、関税引き下げ、完全自由化云々については、国がやることでもあり、市長の立場で無責任な発言はできない。
- 18 多選禁止条例ではなく、多選自粛条例。自分は2期でいいと思う。
- 19 市長報酬は20%削減、退職金は0。
- 20 議員の政務調査費について、共同提案のような方向は必要だが、議会を納21 得させなければならぬので、検討が必要。

以上、共同提案についての協議を終えたあと、政策協定の可能性について尋ねたところ、「かなりの部分では合意できるが、ここに書かれてあるとおりに、全部できるとは限らない。政策協定ができるか否かは、後援会幹部と相談した上で返答したい」とのこと。来週中頃には返答をいただく予定です。

また、反現職候補者の一本化についての質問に対しては、「金澤陣営から野合と批判されるような一本化はすべきではない。」「一本化をどうこう言う時期はもはや過ぎたのではないか。」「そもそも一本化が必要という考え方は、最初から持っていない」という返答がありました。

以上